

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成 2 7 年度 第 6 回 (通算 1 0 回) ジョンソン基地跡地利用計画 審議会
開 催 日 時	平成 2 8 年 2 月 1 日 (月) 午後 0 時 3 0 分 開会、午後 4 時 0 0 分 閉会
開 催 場 所	立川基地跡地昭島地区
議 長 氏 名	関根栄一
出席委員(者)氏名	青山正一、岩崎 茂、大賀志日出輝、 久原愛生、駒月理人、関根栄一、 高石直美、高橋康造、瀧 和之
欠席委員(者)氏名	安孫子学、岩井絹江、小鹿広美、澤田壽一、豊泉一雄、吉川弘三
説 明 者 の 職 氏 名	課長 浅見嘉之、副主幹 亀田一生
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開会 (非公開) 2 議題 (非公開) (1) 視察の経緯と概要、日程説明 (2) 立川基地跡地昭島地区の視察 3 その他 4 閉会
非 公 開 理 由	入間市情報公開条例第 2 4 条第 3 号により非公開とする。 (視察が主であり、円滑な運営に支障が生じる恐れがあるため。)
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	・資料 2 3 視察行程表 / 参加者名簿及び座席表 ・資料 2 4 立川基地跡地昭島地区の視察に至る経緯と東町側留保 地の整備における区画整理方式導入について市の説明 ・資料 2 5 現地視察経路 ・資料 2 6 昭島市の概要・歴史 / 昭島市全域図 / 立川基地跡地の歴史 / 立川飛行場留保地処理状況 図 / 昭島市平成 2 6 年度決算状況 ・資料 2 7 平成 2 0 年『広報あきしま』臨時号「立川基地跡地昭 島地区特集」
事務局職員職氏名	企画部次長 長谷川芳明、企画課長 浅見嘉之、副主幹 亀田一生、 主事 松本幸文
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

事務局から視察の行程を説明した後、UR都市機構から立川基地跡地昭島地区の土地区画整理事業の概要説明があり、その後、視察を行った。

視察後、事務局より東町側留保地の現状や今後の審議会の方向性について説明した。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p>(往路のバス車内にて)</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>ただいまの出席委員は9名です。</p> <p>定足数に達しておりますので、これより、平成27年度第6回、通算で10回になります、ジョンソン基地跡地利用計画審議会を開催いたします。本日の会議録署名委員は、議長のほか、名簿順により「高石委員」を指名いたします。</p> <p>早速、議事に入りますが、本日は、立川基地跡地昭島地区の視察ということですので、進行は事務局にお任せしたいと思います。</p>
長谷川次長	<p>それでは、会長の委任により議事は、事務局で進めさせていただきます。</p> <p>最初に議題1の「視察の概要説明及び日程説明」になります。事務局から説明をお願いします。</p>
亀田副主幹	<p>ご説明の前に、1点ご報告がございます。</p> <p>安孫子委員について、「資料23」では出席となっておりますが、都合により急遽欠席となっております。また、欠席となっていた高石委員については、急遽ご参加をいただきましたので、ご報告いたします。</p> <p>本日の審議会は、昭島市にあります「立川基地跡地昭島地区」の視察を行います。この視察は、配布いたしました「資料24」にも記載してありますが、平成27年度第4回通算8回の審議会で、大賀志委員から、「昭島市の立川基地跡地利用計画について、どのように進めてきたか知りたい」とのご提案をいただき、諮問の審議とは別の扱いで視察を実施する方</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>向が審議会の中で確認されました。</p> <p>第5回（通算9回）審議会では、視察は有志ではなく予算を確保したうえで、全委員を対象として平成27年秋以降に実施する方向が確認されました。これを受けて、会長と事務局で協議した結果、本日の視察に至りました。</p> <p>また、視察の日程につきまして、市の都合により開催が遅れてしまい大変申し訳ございませんでした。この場をお借りして、お詫びを申し上げます。</p> <p>次に本日の日程をご説明いたします。「資料23」の1ページをご覧ください。バスは市役所を出発いたしましたが、現地には13時頃の到着を予定しております。到着しましたら、バスから降りていただき、現地事務所の1階会議室まで移動いたします。</p> <p>座席表は、「資料23」の裏面に記載してありますが、ご指定の場所にお座り願います。なお、安孫子委員の席には高石委員にお座りいただくことになりますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>準備が整いましたら、土地区画整理事業の概要説明をしていただきます。主な説明は、UR都市機構の職員の方がいたしますが、会場には昭島市役所の立川基地跡地開発を担当されている職員の方も同席しております。説明が終わりましたら、質疑応答になります。質疑応答が終わりましたら、次に現地を視察いたします。</p> <p>「資料25」をご覧ください。現地事務所での質疑応答が終わりましたら、会議室から外に出ていただき、「①」の場所から、南側の民間利用が計画されている場所、環境保全用地の場所を視察します。その後、「②」のルートを徒歩で移動いたします。</p> <p>途中、南側から都市計画道路の整備状況等を見ていただきながら、昭和記念公園昭島口まで向かいます。その後、同じルートで元の位置「①」まで戻り、バスに乗車します。</p>

発 言 者	発 言 内 容
長谷川次長	<p>次は、「③」のルートで北側へ移動します。車窓からになりますが、民間利用計画の場所、国際法務総合センターの建設状況を見ていただきます。バスにはUR都市機構の方にも同乗いただくことになっておりますので、説明を聞きながら移動する予定です。バスは、北側の「④」の位置の公園整備予定地に入ります。到着しましたらバスから降りていただいて、北側からの整備状況を見ていただきます。ここでお願いがありますが、「④」の場所は、工事区域となっており、ヘルメット着用の指示が出ております。お渡しするヘルメットの着用をお願いします。説明を受けた後に、その場で、質疑応答となります。</p> <p>質疑応答が終わりましたら、視察は終了となりますので、バスに乗りいただき、おおむね16時頃には市役所に戻る予定です。</p> <p>以上が日程となります。</p> <p>只今の事務局の説明で何かご質問はございますか。</p> <p>特にないようですので、議題1については、終わります。</p> <p>(会場到着)</p>
長谷川次長	<p>それでは、会場に到着いたしました。会議室までご案内いたします。</p> <p>(全員着席)</p> <p>それでは、準備が整いましたので、視察を始めたいと思います。まず、初めに、ジョンソン基地跡地利用計画審議会の関根会長より、ご挨拶を申し上げます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>本日は、御多用中にもかかわらず、ジョンソン基地跡地利用計画審議会の視察のために、昭島市を訪問させていただき、誠にありがとうございます。</p> <p>入間市は、平成２６年９月に防衛省から東町側留保地を災害対処拠点および自衛隊病院として整備する利用意向が示され、その受け入れを要請されました。入間市はこの要請を受け、私どもの審議会に、要請への対応について意見を求めました。</p> <p>審議会では、延べ９回にわたる審議を重ねた結果、防衛省の利用申し入れに対しては、同意すべきとの答申を市長にいたしました。市長はこの答申を受け、平成２７年９月に正式に受け入れを表明し、今後、入間市の東町側留保地は、災害対処拠点および自衛隊病院として整備が進みます。</p> <p>さて、本日の視察は審議会委員の中から、立川基地跡地昭島地区の区画整理事業について、昭島市はどのように進めてきたのか知りたいとの、意見があり、訪問をさせていただきました。東町側留保地の利用は決まったものの、もう一か所ある入間市駅前側留保地の今後の利用計画の参考になればと思っております。</p> <p>以上で、私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、よろしくお願いいたします。</p>
長谷川次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、本日ご説明をいただく皆様方をご紹介します。</p> <p>まず初めに、事業主である「独立行政法人 都市再生機構 東京西部都市再生事務所」の方々です。</p> <p>（自己紹介）東日本都市再生本部 事業推進部 東京西部都市再生事務所 所長 久宮 和彦 ・ 事業計画課長 吉田 優司</p>
長谷川次長	<p>ありがとうございました。</p>

発 言 者	発 言 内 容
長谷川次長	<p>次は、「昭島市役所 都市計画部地域開発課 立川基地跡地開発担当」の方です。</p> <p>(自己紹介) 昭島市役所 都市計画部地域開発課 立川基地跡地開発担当係長 岩波 聡</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、土地区画整理事業の概要説明について、ご説明をお願いいたします。</p>
久宮所長 (UR)	<p>経緯を説明します。この土地は約66haとかなり広大な土地です。昭島地区が全面返還されたのは昭和52年です。先行的に整備されたのは、昭和記念公園と立川駅側であり、この土地は留保地という扱いをされていましたが、平成15年、国の財政制度等審議会から「原則利用、計画的有効活用」とする大口返還財産の留保地の取り扱いに関する基本方針の転換が示され動き出しました。</p> <p>事業計画の大きなポイントは、法務省の施設である「国際法務総合センター」の受入要請です。ここに国の機関を集約し、国際法務総合センター内に、病気を抱えた受刑者の施設、官舎、アジア総合研修所（法務省の研修所）を整備することで進められ、財務省の処分について、ある程度見込めるという時程に達し、平成20年頃から利用計画の検討が進められています。</p> <p>次にポイントとなったのが、平成20年4月には地区内に希少種のオオタカの営巣が見つかり、自然林は保全のため、そのまま残すことにしました。</p> <p>結果的に民間が利用できるのは、10ha強ということになります。事業として動き出したのは、平成24年に都市計画を区画整理事業で行うこ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>とが決定してからです。昭島地区の区域は調整区域でしたので、事業を進めるためには都市計画からという動きがあり、調整区域から市街化区域へという動きをしています。平成25年から我々が施工者として工事を進めていくのですが、オオタカの営巣があることから、1月～7月の間、本格的な工事は行わず、秋から進めております。</p> <p>地区内の中央、南北にある道路は、昭和50年代に都市計画決定されたものです。留保地のままの状態で、都市計画決定されていました。</p> <p>以上が経緯です。</p> <p>この中で民有地がいくつかあります。元々ここは米軍に接収される前も陸軍の基地でした。基本的には国が保有していたのですが、取得する時に登記忘れが何筆もあり、それを処理する為にも区画整理という手法を使うことになりました。</p> <p>事業期間は平成24年度～平成28年度（清算期間含まず）、実質的には来年の3月までに完了する予定です。事業費は約100億円です。</p> <p>土地利用ですが、区画整理とはいえ、URが全て実施するのではなく、役割分担をしています。基本的に道路と民間に処分するような宅地の部分はURが実施します。国が利用するところは、国が直接整備していく役割分担をしています。</p> <p>調節池は東京都が整備し、地下水の汲み上げ施設、浄化水路及び下水道は昭島市が整備します。費用についても開発者が一部負担するところもあります。なお、下水道整備については、区画整備事業と一緒に整備した方が効率的であるため、昭島市から受託という形で進めております。</p> <p>事業を始める際には、最初に関係者の役割分担をきちんと決めた上でスタートしております。</p> <p>次に、民間利用の場合どのように利用計画を作っていくのか、また、立地をどのように考えていくのか、この2点について、ご説明いたします。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>区画整理事業が認可されるまでの間、民間利用に関しては、民間業者の言葉をイメージ化する程度で、具体的には計画していませんでした。どちらかというと、国の施設が先行的に動いており、民間の具体的な中身は煮詰まっていなかったというのが現状です。</p> <p>本来は事業開始時に、どういった施設が入るのかというものをイメージしていますが、現時点で民間利用について、住宅になるのか、商業施設や業務施設になるのか、全くわからないと困ってしまうので、去年あたりから、昭島市及び財務省と検討し、マーケットのヒアリングをしながら具体的な組み立てを行っている状況です。最初に立てた計画というのは、変わらざるを得ないということは当然あると思います。</p> <p>今、簡単に言いますと、南側の方は、駅前であるため商業と集合住宅が中心になると思います。西側は住宅と、近くに変電所があるので、周りの環境からすると、工業系の利用ができればいいと思っています。また、昭島市の高齢者福祉、子育て支援といった施設、住宅も入ると思います。</p> <p>やはり市場は変わりますので、その都度チェックして計画を見直すべきところは見直していくというやり方を考えております。</p> <p>それから、特徴的なのは、もともとの規模が大きすぎたため、我々が細かく指定してしまうと、苦しいところがあるので、ここは、ひとつの方法として、民間の工夫というものを引き出せるような、ガイドライン等を策定し、デベロッパーによってうまく配分してもらい、使う方針だけは整理していこうという考えで動いています。</p> <p>民間のマーケットというのが一番希望は膨らむかもしれませんが、多少現実的な所も必要です。人が来てもらわないと意味がありません。市役所や公共施設でしたら問題ありませんが、民間の事業というのはうまく見極めて進めることが重要であると思っています。</p>
長谷川次長	ありがとうございました。それでは質疑に入ります。

発 言 者	発 言 内 容
高石委員	資料の地図を見ると自然林があります。この場所は閉鎖しないで誰でも自由に入れるところなのですか。
久宮所長（UR）	今のところは閉鎖しています。自然林の場所は管理されておらず、40年前のままの状態です。また、オオタカへの配慮のために閉鎖しようと思っています。
高石委員	管理は昭島市がするのですか。
久宮所長（UR）	管理は土地の所有者である財務省になります。恐らくオオタカが居る間は、そのままの状態にしておくと思われます。
大賀志委員	昭島市の方にお伺いしたいのですが、当日配布資料に記載してあります事業計画ですが、収入のところに「保留地処分金84億円」とありますが、これは66haの減歩率を40%にして見込んだ額なのですか。
岩波係長（昭島）	はい。
大賀志委員	資料の地図で「事業区域約66ha」と書いてありますが、減歩率の40%というのは、どこにあたるのですか。
久宮所長（UR）	財務省と調整中です。減歩率というのは、区画整理により、道路等の公共用地を生み出す際、元の土地の面積が減少する割合のことです。本事業地内の土地は、ほとんどが財務省管轄なので、今までなるべく位置は決めないようにしていました。最初は法務省が予算取りをして土地を購入しようとしており、それを留保地にアテがおうとしていました。しかし、現状は留保地東側の公共利用予定地（法務省予定）となっているところの計画

発 言 者	発 言 内 容
	が具体化していない状況です。
大賀志委員	了解しました。８４億円とは、国から入ってくるお金なのですか。それとも民間の利用予定地からの収入なのですか。
久宮所長（UR）	結果的に今検討しているのは民間に我々が処分して、収入を得ようとしています。
大賀志委員	民間利用が何箇所かありますが、約１０haの代金が８４億円ということですか。
久宮所長（UR）	その中の一部となります。
大賀志委員	何%くらいですか。
久宮所長（UR）	見込は半分強くらいです。
大賀志委員	昭島市に伺いますが、何年か前にも入間市で視察に来ていますが、その時、視察に行ったある議員さんが、「昭島市は減歩率４０％で土地を売却して、昭島市の負担ゼロで整備が出来たという説明を聞いてきた」と言っていました。実際のところ昭島市の負担「ゼロ」ということは、あり得ないと思うのですが、昭島市の負担はどのくらいあったのですか。
岩波係長（昭島）	市の負担については、事業地内だけではなくて、事業地を活用するために東中神の駅の周りや排水施設や下水道の施設などを作っていくということにも市費が使われます。今回、法務省の施設が整備されることに伴い、昭島市に対して国から負担金が支払われます。この負担金を工事費に

発 言 者	発 言 内 容
	<p>充てるということで、昭島市の負担が限りなくゼロに近いという説明をしたと思います。</p>
大賀志委員	<p>限りなくゼロに近いのですか。</p>
岩波係長（昭島）	<p>いいえ。</p> <p>最近、相当乖離があります。URの工事も経費が上がったりしまして、色々な面でお金が掛かるようになってきていると聞いています。市の工事でも全く同様であり、当初、国際法務総合センターの整備に伴う負担金等で、70%ぐらい市費が埋まるのでは、という計算がありました。</p> <p>ところが、最近、費用が膨らみ予算が足りない状況です。法務省の施設整備が一部延期になってしまっているという部分ができた暁には、本来の負担金に加え、追加してもらうよう交渉もしていますが、見通しが立たないとの返事をもらっているところです。</p>
大賀志委員	<p>昭島市としては、留保地の整備はかなり負担ですか。</p>
岩波係長（昭島）	<p>かなり負担です。しかし、市長の意向もあり、やらざるを得ない状況となっています。</p>
大賀志委員	<p>次にURの方にお聞きしたいのですが、土地の価格設定は入札方式なのですか。</p>
久宮所長（UR）	<p>基本的には入札方式です。財務省も入札方式です。</p>
大賀志委員	<p>民間利用が何箇所かありますが、民間企業に対して個別に訪問して、アプローチをしたのでしょうか。それとも民間企業がコンセプトを聞きつけ</p>

発 言 者	発 言 内 容
久宮所長（UR）	<p>て民間企業の方からお願いに来たのですか。</p> <p>配置をどのようにするべきかについては昭島市が整理しています。我々はガイドラインとして、概ねこういった方向でやって欲しいというものを作ろうとしています。それにあたっては、民間のヒアリングを相当しています。商業施設だったらこの辺りに大きなものを作っても成り立つのか等を調べます。成り立たなければ想定しても意味がないので、きちんと想定してこちら側からアプローチをしています。</p>
大賀志委員	<p>実際、企業とアプローチをして、打合せみたいなのをしているのですね。</p>
久宮所長（UR）	<p>ヒアリングという形でしています。</p>
大賀志委員	<p>例えば応募者が多かった場合に、抽選になるとか入札の金額が高い等、優先順位はどうなっているのですか。</p>
久宮所長（UR）	<p>今のところは基本的には金額が高い方だけです。企画型の財務省の制度は、財務省の企画と業者の企画が合致すれば後は競争です。</p>
大賀志委員	<p>土地の整地や土壌調査等を実施してから売却するのですか。</p>
久宮所長（UR）	<p>区画整備事業の中で実施します。</p>
大賀志委員	<p>その費用は昭島市ではなく、URがすべて負担しているのですか。</p>
久宮所長（UR）	<p>それは土地の値段の部分に返ってきます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
大賀志委員	先行投資しているのですね。
久宮所長（UR）	そうです。
駒月委員	事業費で支出が多く、収入との差ができた場合はどうするのですか。
久宮所長（UR）	URが事業主体となるので、ある程度、最初から事業費と処分地を見込みながら計画を進めていくという形になると思います。その中で、たまたま昭島地区の場合は、事業負担を超えてしまいましたが、その点のリスクはURが負わざるを得ないことになります。当然事業の期間の中で大きな乖離となったときには、地権者と相談し事業費の減少や、収入の規模を広げさせていただく等の協議もさせていただきます。今回は、大規模発注をさせていただいたので、事業費は最終的に減る予測となっております。また、コストを縮減することも我々が努力するところです。
久原委員	当日配布資料の事業計画に、地方公共団体費というのが7億ありますが、これは東京都と昭島市が負担するお金でしょうか。
久宮所長（UR）	はい。
久原委員	昭島市が1億なら払うとか、7億のうちの3億が負担の予定だったとか、最初から決まっている金額があるのですか。
久宮所長（UR）	返還財産の国有地ということで、区画整理事業的に補助金（用地費）を入れられない仕組みになっています。都市計画道路を整備する工事費に対して補助金が入ってきます。その補助事業費の総額として17億円くらいを想定しています。それに対して国費と補助率が決まっていまして、この

発 言 者	発 言 内 容
	<p>地区でいうと５５％、残りの４５％を公共団体が負担する。それに対して東京都と昭島市で負担するという仕組みになっています。</p>
久原委員	<p>ほとんどこれは、道路整備のための費用ですか。</p>
久宮所長（UR）	<p>わかりづらいと思いますが、区画整理といわれている事業での事業計画ですので、先程言いましたように公共下水道をやりますとか、水道のための配水地を作りますというのは別扱いとなります。</p> <p>区画整理という枠組みの中だけであれば、相当圧縮されています。公園は区画整理で整備する必要はないところであり、公園事業を市で行うと思いますが、この部分については、財務省が負担し、区画整理事業の中で、整理してやっているものと、理解していただけたらと思います。</p> <p>本来であれば区画整理の上に公園事業をのせれば、国土交通省からの補助金が入るという仕組みもできるわけです。</p>
駒月委員	<p>公園には補助金が入っていないのですね。</p>
久宮所長（UR）	<p>はい。区画整理上は道路整備費になります。公園は、区画整理で本来作るべきものではないという事で、補助金としては基本的に入らないです。</p>
駒月委員	<p>近くに昭和記念公園という大きな公園があるので、公園の必要性がないと思われます。民間に売ってしまった方がお金になり、よいのではないのでしょうか。</p>
久宮所長（UR）	<p>財務省はその方がいいと思います。</p> <p>ですが、どこの自治体においても開発する際に、大体何％の公園が欲しいかということを協議内容に盛り込みたい思いがあると思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
浅見課長	<p>今回、この留保地に国際法務総合センターが整備されることで、昭島市に補助金が入ってきましたが、国の施設であっても整備内容によっては、必ずしも補助金が入ってくるとは限りません。</p> <p>本日の視察を通じて、昭島地区の跡地利用が、市の負担なしでできるものではないということが理解できました。そこで再確認ですが、元々入間市は留保地だけを再開発しようとしています。昭島地区の区画整理事業は、本日審議会委員にお配りした「資料２６」の中の「立川飛行場処理状況図」では、黄色い部分が留保地で、南側の青い部分が当初から処分されている土地です。この両方を併せて土地区画整理事業をされていますけども、例えば黄色い部分だけで土地区画整理事業をしたときにURはやりますよと言えたのでしょうか。そこだけ確認したいのですが。</p> <p>もう少し言いますと駅に近い方の民間利用の部分がなくなるわけです。つまり売却益がなくなるような土地区画整理事業に参入したかどうか、その辺を確認したいと思います。</p>
久宮所長（UR）	<p>参入もあるかと思います。区画整理は組み立ての仕方ですから、最終的に留保地という土地で事業費を回収する（国がもう１回留保地を買う）という仕組みも極端な話ですがあります。要するにお金の代わりに区画整理で資金を調達しておいて、留保地という土地として整備をしていくという方法です。</p> <p>例えば、国が買うと約束をしてくれれば、我々は一番安全で、昭島地区も最初は国が買う前提でスタートしています。ただ大変なのは民間に売らなくてはいけないということです。民間に売の場合は、ちゃんと確度をつけていかないと判断できません。できる限り区画整理として組み立てする場合は、誰が買ってくれるのかというのを念頭に置かなければなりません。例えば、市が買って市が建物を建てる敷地として整備する、または、</p>

発 言 者	発 言 内 容
長谷川次長	<p>財務省から直接買うこともあると思います。一方、民間からの強い引き合いがある場合は、民間に売ってしまうやり方も当然あると思います。</p> <p>この後は現地の視察に行きたいと思います。</p> <p>（現地視察開始）※行程は「資料２５」を参照</p> <p>（現地視察終了）</p> <p>（復路のバス車内にて）</p>
長谷川次長	<p>本日は大変お疲れ様でございました。</p> <p>議題のその他になりますが事務局からお願いいたします。</p>
浅見課長	<p>はじめに、東町側留保地の現状（受入れ回答後の進捗状況）について報告します。確認のために、前回審議会から経過を説明します。８月１８日に開催しました前回第５回（通算９回）の審議会で、防衛省による整備について「同意すべき」との答申内容が確定し、同日、関根会長から「市民にとってより良い対応をしていただけるよう、防衛省との協議調整を求める」旨の附帯意見が付けられたうえで、答申がなされました。</p> <p>これを受けまして、８月２７日、市長が北関東防衛局長に答申書の附帯意見を踏まえた要望書を提出し、防衛省の考え方を確認しました。北関東防衛局長からは、「可能な限り、その実現に向け努力していく」との回答がありました。</p> <p>その後、９月１７日には、市議会からも審議会の答申内容に沿った防衛省の申し入れに同意する前提での要望を市長宛にいただきました。</p> <p>さらに、議会からのご意見も踏まえまして、９月定例議会の最終日の１８日には、市長が受入れを表明し、９月２４日には、受入れの正式回答を防衛省宛に提出しました。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>この正式回答を受けて北関東防衛局が９月２９日に、東町側留保地の整備に関して「公募型プロポーザル方式」による各種調査及び基本検討のための業務についての手続きを開始しました。また、１０月２２日には、財務省関東財務局長の諮問機関である「国有財産関東地方審議会」が、東町側留保地の所有権を財務省から防衛省に移管し、災害対処拠点及び自衛隊病院等とすることを認める答申を行いました。</p> <p>１１月１８日には、正式回答後初めて、事務局と防衛省で市からの要望事項の再確認等の協議を行い、１２月２２日にも今後の整備に向けての協議を行いました。</p> <p>同じ日の２２日には、「ストップ入間基地拡張！市民の会」が議会に提出した「防衛省による利用要請に受け入れ回答したことについて、反対する請願」への対応が審議され、不採択となりました。</p> <p>年があけまして、１月２６日には、東町側留保地の整備に向けた各種調査及び基本検討を行う業者と北関東防衛局との契約が締結され、工期は平成２９年３月３１日までとなっております。</p> <p>以上が答申からこれまでの東町側留保地をめぐる状況の報告となります。</p> <p>次に、東町側留保地の整備状況確認組織設置の考え方について、ご説明します。今後防衛省が整備する各施設について、市民にとってよりよい内容となるよう本市としては引き続き、防衛省と協議調整を行ってまいります。また、併せて防衛省の整備計画や施設の市民利用の方法について、その内容をチェックする「整備状況確認組織」の設置を検討しております。この確認組織設置の考えについては、審議会の中でも申し上げてまいりました。具体的な体制等については、要綱を３月中に整備する中で決定してまいります。現時点での考えを申し上げますと、東町側留保地隣接の区長さん（一番村、東久保）、受入れを前提とした要望書を提出された団体の方（豊岡地区区長会、入間市消防団、入間市体育協会、入間市サッカー</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>協会)、周辺の小中高等学校代表者(東町小、豊岡小、東町中、豊岡中、入間向陽高校)、病院関連で入間地区医師会などの方々にご協力をお願いしたいと考えております。</p> <p>本日ご出席の皆様の中にも重なる方がいらっしゃると思いますので、その際は、これまで同様にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。</p> <p>次に、入間市駅前側留保地の今後の取り組み方向についてご説明します。</p> <p>現在、市では、第5次総合振興計画の次の計画を「次期総合計画」と呼びまして、平成29年度からの計画期間開始に向けて策定中です。現時点においては、この計画の素案に記述された入間市駅前側留保地利用の検討の内容が最新の方向性を示すこととなります。その内容は、「駅前側留保地利用計画の基本方針策定」と「利用計画策定に向けた調査・研究」であります。つまり、具体的な利用計画策定に向けた検討の前提となる基本方針を策定すること及び調査・研究を行うことを示しています。</p> <p>したがって、具体的な利用計画案ができて、その案の是非を審議するジョンソン基地跡地利用計画審議会に諮問できるようになるには、今後さらなる時間が必要となるということになります。この次期総合計画の内容は2月10日～3月10日にパブリックコメントを行い、市民の皆様のご意見を頂戴することになっておりますが、委員の皆様には、現時点における駅前側留保地の利用計画がこのような状況となっていることをご理解くださるようお願いいたします。</p> <p>なお、駅前側留保地利用の基本方針を策定するにあたっては、市民の皆様や関係機関と意見交換、調整を行うことを考えております。</p> <p>最後に、今後のジョンソン基地跡地利用計画審議会の方向について申し上げます。本審議会は本日の視察をもって年度内の開催は最終としたいと考えております。また、来年度につきましては、皆様の任期が12月まで</p>

発 言 者	発 言 内 容
長谷川次長	<p>となっておりますので、東町側留保地の整備に係る各種調査や基本検討の進捗状況及び先ほどご説明した次期総合計画の基本構想が議決される予定の9月をメドに改めて、入間市駅前側留保地の方向性を報告させていただければと考えております。詳細については、関根会長と調整のうえ、具体的な通知を事前にさせていただきますのでよろしくお願いします。</p> <p>以上で、議題については、終了となります。</p> <p>全体を通じて、何かご質問等はございますでしょうか。</p> <p>なければ、関根会長の閉会のご挨拶をお願いいたします。</p>
関根会長	<p>本日は大変お疲れ様でございました。</p> <p>先ほど、事務局から話がありましたが、本年度の審議会は本日をもって、終了となります。委員の皆様方には、これまでに貴重なご意見をたくさんいただき審議を進めることができました。改めてお礼を申し上げます。</p> <p>今後においては、東町側留保地について、私たち審議会が答申書に附記したとおり、市は、市民にとってよりよい整備内容となるよう防衛省との協議・調整に努めていただくよう重ねてお願いします。また、入間市駅前側留保地については、市において利用計画の基本方針を検討していくようでありますので、私たちとしても、しばらくそれを見守っていきたいと思います。</p> <p>本日の視察内容は、入間市の留保地利用計画へ、すぐに反映できるというものではありませんが、委員の皆様におかれましては、今後の参考にいただければと思います。</p> <p>それでは、これをもちまして平成27年度第6回（通算10回）のジョンソン基地跡地利用計画審議会を終了いたします。</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成28年3月16日

議長の署名

関根 栄一

議長が指名した者の署名

高石 直美